

I 調査の概要

1. 調査の目的

未来プラン（後期）の計画期間（平成26～30年度）が今年度で終了することから、これまでの取り組みの成果を確認するとともに、区政に関する区民の意向を把握し、今後の政策形成につなげていく。

2. 調査の内容

- (1) 最近5～10年間における変化
- (2) 重視していくべき区の施策
- (3) 大田区の将来イメージ
- (4) 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題
- (5) 「教育の充実」に関して力を入れていくべき課題
- (6) 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題
- (7) 「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題
- (8) 「『羽田空港』が立地する大田区でのまちづくり」として取り組みを進めるべき課題
- (9) 「地域力を活かした区政」に関して力を入れていくべき課題
- (10) 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題
- (11) 「区民主体の区政実現」に関して力を入れていくべき課題
- (12) 今後の公共施設整備の進め方
- (13) 今後の公民連携の進め方
- (14) マイナンバーカードの活用や行政手続きの電子化などについて期待すること
- (15) 特別出張所の今後のあり方

3. 調査の設計

- | | |
|-----------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 大田区全域 |
| (2) 調査の対象 | 大田区内に居住する満18歳以上の男女個人 |
| (3) 調査対象数 | 2,400人 |
| (4) 抽出方法 | 層化無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 配付は郵送方式。回答収集は、郵送または電子申請方式。 |
| (6) 調査期間 | 平成30年7月6日～30日 |

4. 回収結果

- | | |
|-----------|-------------------|
| (1) 有効回収数 | 777 通（電子申請135件含む） |
| (2) 有効回答率 | 32.4 % |

5. 報告書の見方

- (1) 結果の数値は原則として回答率 (%) で表記している。回答率 (%) の母数は、その設問項目に該当する回答者の数であり、n = と表記している。また、複数回答についても回答者の数としているため、合計比は100%を超えることがある。
- (2) 集計は小数第2位を四捨五入してある。したがって、各回答率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 「時系列比較」を行っている部分は、大田区において過去に実施した調査の結果を用いている。
- (4) 分析の軸 (=縦軸) としたプロフィールや設問は、無回答を除いている。そのため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている場合がある。
- (6) 基数が小さいと、比率が動きやすく標本誤差が大きくなるため、回答者数が30未満のものについては、参考として示すにとどめ、この報告書では特に取りあげていない場合がある。
- (7) 帯グラフ中では、スペースの都合上0%の数値の表示を省略している。
- (8) 分析において、割合を比較する際、その差をパーセント・ポイント (以下「ポイント」と表記) で表している。

【標本誤差について】

調査結果の比率から母集団 (満18歳以上の区民全体) の傾向を推測するには、統計上の誤差 (標本誤差) を考慮する必要がある。標本誤差は次の式によって得られ、①比率算出の基数 (サンプル数) と②回答の比率によって異なる。この調査の標本誤差はおおよそ下表の通りである。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 p = 回答の比率

各回答比率における標本誤差早見表 (信頼度95%で算出)

回答の比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
777	±3.0%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.1%
700	±3.2%	±4.3%	±4.9%	±5.2%	±5.3%
600	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
500	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.3%
400	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%

注) 上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出した。

【早見表の見方】

たとえば、ある設問に対する回答者が777人であり、その設問の1つの選択肢に対する回答が50%であった場合、大田区民 (満18歳以上の男女) のこの設問に対する回答は、44.9%~55.1%の間にあると考えられる。